

令和元年6月16日
今週のベストショット



青松園B 三友クラブ 対 三苦三球会

2イニングずつ3人の継投で三球会打線を1点に抑えた三友クラブ足立、柴田、矢野の3投手。

写真：奈多サンデーズ 野々下 利生久

青松園A ホーネッツ圧勝！

三苦ホーネッツ (4勝) 4 6 4 0 0 1 4 川原○-広木

新町ウインズ (1勝3敗) 0 0 0 0 0 0 藤田●-今林

3BH：矢野(雅)(三苦ホ) 2BH：矢野(義)、川原(三苦ホ) 盗塁：井手(三苦ホ)

他のグラウンドの試合が中止となりギャラリーが増えた青松園Aは、試合開始が6時49分となった。先攻三苦ホーネッツは、一死後二番川原選手が三塁頭上を越す安打で出塁すると、三番矢野(義)選手が見事なエンドランで一二塁間を抜く。続く四番広木選手の打球は二塁ベース寄りに守る遊撃手の正面へ。ゲッツーで万事休すと思われたが、この打球が外野に抜けホーネッツが先制すると、すかさず四球、失策を絡めて初回にいきなりの4点を挙げた。勢いに乗るホーネッツは二回にも2二塁打、3四球で打者10人を送り込み大量6点を追加すると、続く三回にも2安打2四球で4点を追加し、三回までに大量14点のリードを奪った。何とか反撃したいウインズだが、四番野中選手のヒット1本のみで抑えられ、好投川原投手の前に走者を出すことができない。最終回、漸く永淵選手が安打を放ったが、散発2安打、走者は3人のみとほぼ完璧に抑えられ、最後まで反撃の糸口が掴めなかった。強打者が揃っているにも拘らず、常に次の塁を窺う積極的な走塁、進塁打、エンドラン等のチームプレーで貪欲に得点を窺うチームカラーがよく表れた内容でホーネッツ圧勝となった。

(記事：塩浜ジャガーズ 高嶺 信彦、写真：一ノ瀬 四恩)



試合前の両監督握手。



新町ウインズ先発の藤田投手。



ホーネッツ一番堺恭介選手の豪快なフルスイング。



俊足巧打の二番井手選手。



一回裏、先制のホームを踏む井手選手。



ウインズ打線を安打完封で抑えたホーネッツ川原投手。



ある意味背面キャッチ、今林捕手。



二回表、クリーンヒットを放った野中選手（の空振り）。

青松園B チャンスで打った秋吉選手の活躍で三友クラブ勝利！

三友クラブ（3勝1敗）102100 4 足達○、柴田、矢野ー秋吉

三苦三球会（3勝1敗）100000 1 吉留●ー半田

HR：船橋（三球会）2BH：秋吉、広瀬（（三友ク）濱口（三球会）盗塁：船橋（三球会）

三友クラブは一回表、一死一塁の場面で三番秋吉選手がレフトへの二塁打を打ちあつさり1点を先取するも、その裏三球会は、一番船橋選手が三友クラブ足立投手の2球目をセンター越えの先頭打者本塁打で、すぐさま試合を振り出しに戻す。シーソーゲームが予想されたが、三回表三友クラブは、二死二塁から三番秋吉選手、四番谷崎選手の連続タイムリーでこの回2点。続く四回表には、一死二塁から八番広瀬選手のレフト前タイムリーで1点を追加し3点差とする。その後三友クラブ柴田、矢野両投手のリリーフ勢が三球会打線を封じ込め、3点のリードを守り切りゲームセット。三友クラブ三番秋吉選手のチャンスの場面での二安打2打点の活躍が光った。
（記事：奈多サンデーズ 前田 篤史、写真：野々下 利生久）



久しぶり先発の三球会 吉留投手。



三友クラブ先発の足立投手。



一回裏、同点の先頭打者HRを放つ三球会 船橋選手。



四回表、大ファールの後、適時二塁打の三友クラブ 広瀬選手。



四回表、綺麗なレフト前でチャンス演出する山本選手。



強烈な打球を華麗にさばいた三球会 堺達也三塁手。



見事な投手リレーを見せた三友クラブ投手陣。



三球会唯一の得点、先頭打者HRの船橋選手。

グラウンド不良の為、以下の2試合は中止です。

- ・ 雁レク軟式2 奈多フェニックス 対 雁の巣ライナーズ
- ・ 雁レク軟式3 三苦フレンズ 対 ソルトベイスターズ